国語科【言語文化】 評価規準

愛媛県立今治西高等学校 国語科

教 科	国語	科	目	言語文化		
単 位 数	2	学	年	1	類 型	共通
教 科 書	高等学校 言語	文化(第	第一学習	社)		
科目目標	に表現する資質 1 生涯にわた の言語文化に 2 論理的に考 関わりの中で できるように 3 言葉がもつ	・能力を さ社会を 対する力を だよる。 か価 国の でででき	と次にとと、とのとと、とのと、とのと、とのと、とので、とので、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	おり育成すること。要な国語の知識やさめることができる感したり豊かに想め、自分の思いや考察めるとともに、生の担い手としてのほ	を目指す。 技能を身に付け ようにする。 像したりする力 きえを広げたりき	内確に理解し効果的 るとともに、我が国 を伸ばし、他者との ためたりすることが た書に親しみ自己を を通して他者や社

令和6年度 1学期 国語科【言語文化】 評価規準

単元	古文に親しみ、表	現の面白さや描写の巧みさを知ろ ⁹	う。(『宇治拾遺物語』児のそら寝)	
評価期間	1 学期 4 月			
	・我が国の言語文	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を		
	深め、文章の中	深め、文章の中で使うことを通して、五感を磨き語彙を豊かにすることができる。		
	・「読むこと」にお	いて、作品や文章に表れているもの	のの見方、感じ方、考え方を捉え、	
単元の目標	内容を解釈する	ことができる。		
	・言葉がもつ価値	への認識を深めるとともに、生涯に	こわたって読書に親しみ自己を向	
	上させ、我が国	の言語文化の担い手としての自覚	をもち、言葉を通して他者や社会	
	に関わろうとす	る。		
知證	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度			
・我が国の言語文化に特徴的な		「読むこと」において、作品や	・本文の表現の面白さについて	
語句の量を	増し、それらの文	文章に表れているものの見	話し合うことを通して、我が	
化的背景に	ついて理解を深	方、感じ方、考え方を捉え、内	国の言語文化に特徴的な語句	
め、文章の	中で使うことを通	容を解釈している。	の量を増し、それらの文化的	
して、五感	を磨き語彙を豊か		背景について理解し、作品に	
にしている。			表れたものの見方や感じ方を	
			捉えようと粘り強く取り組む	
			中で、自らの学習を調整しよ	
			うとしている。	

観点	評 価 内 容	
左□言軸 _ 十士 会比	・第1学期中間考査	
知識・技能	・語句・文法プリント	
田本、刘屹、丰田	・第1学期中間考査	
思考・判断・表現	・授業プリント・ノートの記述内容	
	・週末課題の記述内容	
主体的に学習に取り組む態度	・授業プリント・ノートの記述内容	
	・教師による行動観察	

単元	漢文を訓読する	ための基礎知識を習得しよう。(漢	文入門 訓読に親しむ)	
評価期間	1学期 4~5	月		
	・古典の世界に	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきま		
	り、古典特有	の表現などについて理解することだ	ができる。	
	「読むこと」に	こおいて、各文に表れているものの	見方、感じ方、考え方を捉え、内	
単元の目標	容を解釈する	ことができる。		
	・言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生活	厓にわたって読書に親しみ自己を	
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての	自覚をもち、言葉を通して他者や	
	社会に関わろ	うとする。		
知識·	▪技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・古典の世界に	親しむために、	「読むこと」において、各文に	・学習の見通しをもって、音読の	
古典を読むた	めに必要な文語	表れているものの見方、感じ	確認をし合うことを通して、	
のきまりや訓	読のきまり、古	方、考え方を捉え、内容を解釈	訓読のきまりや古典特有の表	
典特有の表現	などについて理	している。	現について理解を深め、各文	
解している。			に表れたものの見方、感じ方、	
			考え方を捉えようと粘り強く	
			取り組む中で、古典の世界に	
			親しもうとしている。	
観	点	評価	内 容	
£ - =+h	1.1. (No.	第1学期中間考査		
知識・技能		・訓読練習プリント		
思考・判断・表現		第1学期中間考査		
		・授業プリントの記述内容		
		・週末課題の記述内容		
主体的に学習に	こ取り組む態度	・週末課題の記述内容		
エデザリー 1 日 1 2 3 7 7 1 2 1 2 1		教師による行動観察	у· н	
		シェア・クログラス		

単元	人物造形の面白	さを読み取り、内容や展開を捉え。	よう。(『宇治拾遺物語』絵仏師良	
単 九	秀)			
評価期間	1学期 5~6	月		
	・古典の世界に	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきま		
	り、古典特有	り、古典特有の表現などについて理解することができる。		
	「読むこと」に	こおいて、文章の構成や展開、表現	の仕方、表現の特色について評価	
単元の目標	することがで	きる。		
	・言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生活	匪にわたって読書に親しみ自己を	
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての「	自覚をもち、言葉を通して他者や	
	社会に関わろ	うとする。		
知識	技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・古典の世界に	親しむために、	「読むこと」において、文章の	・作品に描かれた人物造形の面	
古典を読むた	めに必要な文語	構成や展開、表現の仕方、表現	白さについて伝え合うことを	
のきまりや訓読のきまり、古		の特色について評価してい	通して、文語のきまりや古典	
典特有の表現	などについて理	る。	特有の表現などについて理解	
解している。			を深め、文章の構成や展開、表	
			現の仕方や特色を捉えようと	
			粘り強く取り組む中で、自ら	
			の学習を調整しようとしてい	
			る。	
観	点	評価	内容	
Æn ≓th	- ++ <u>4</u> r.	第1学期期末考査		
川 湖	・技能	・文法テスト		
FI = 100		第1学期期末考査		
お荷・判	断・表現	- ・		

単 元	歴史的・文化的背景を踏まえて、内容や展開を的確に捉えよう。(『戦国策』蛇足)
評価期間	1 学期 6 月
	・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深
	め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解することができる。
	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙
単元の目標	述を基に的確に捉えることができる。
	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を
	向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や
	社会に関わろうとする。

・授業プリントの記述内容

・授業プリント・ノートの記述内容

・ 週末課題の記述内容

・教師による行動観察

主体的に学習に取り組む態度

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・時間の経過や地域の文化的特	「読むこと」において、文章の	・学習の見通しをもって、故事
徴などによる文字や言葉の変	種類を踏まえて、内容や構成、	成語の由来や意味について調
化について理解を深め、古典	展開などについて叙述を基に	べ、発表する活動を通して、文
の言葉と現代の言葉とのつな	的確に捉えている。	章の内容や構成、展開などに
がりについて理解している。		ついて的確に捉えようと粘り
		強く取り組む中で、古典の言
		葉と現代の言葉とのつながり
		について理解しようとしてい
		る。
観 点	評価	内 容
4. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	第1学期期末考査	
知識・技能	・語句・句法プリント	
思考・判断・表現	第1学期期末考査	
心方・刊断・衣坑	・授業プリント・ノートの記述内容	
	・週末課題の記述内容	
主体的に学習に取り組む態度	・授業プリント・ノートの記述内容	
	・教師による行動観察	

令和6年度 2学期 国語科【言語文化】 評価規準

単 元	俳句の鑑賞の仕	方を理解し、俳句を創作しよう。(近現代の詩歌「こころの帆」)	
評価期間	2 学期 8 月			
	・我が国の言語	・我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解できる。		
	・「読むこと」に	・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内		
単元の目標	容を解釈する	ことができる。		
单九 の日標	・言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生活	厓にわたって読書に親しみ自己を	
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての「	自覚をもち、言葉を通して他者や	
	社会に関わろ	うとする。		
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・我が国の言語文化に特徴的な		「読むこと」において、作品に	・俳句の形式や表現を進んで理	
表現の技法とその効果につい		表れているものの見方、感じ	解し、学習の見通しをもって	
て理解してい	る。	方、考え方を捉え、内容を解釈	俳句文芸に親しみ、作品に表	
		している。	れた心情を鑑賞するととも	
			に、俳句の創作を通して、自分	
			のものの見方、感じ方を豊か	
			にするために粘り強く取り組	
			もうとしている。	

観点	評価内容
知識・技能	・授業プリントの記述内容
思考・判断・表現	・鑑賞プリントの記述内容
主体的に学習に取り組む態度	・創作俳句

単元	随筆に表れたも	 のの見方・考え方を理解しよう。(『炒甘子』山納言会り給かて)	
評価期間	2学期 8~9	•		
		親しむために、古典を読むために	必要な文語のきまりや古典特有の	
	表現などにつ	いて理解することができる。		
	・「読むこと」に	おいて、作品や文章に表れている	ものの見方、感じ方、考え方を捉	
単元の目標	え、内容を解	釈することができる。		
	・言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生活	厓にわたって読書に親しみ自己を	
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての!	自覚をもち、言葉を通して他者や	
	社会に関わろ	うとする。		
知識	• 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・古典の世界に	親しむために、	「読むこと」において、作品や	・学習の見通しをもって、随筆	
古典を読むた	めに必要な文語	文章に表れているものの見	のさまざまな文体や取り上げ	
のきまりや古	典特有の表現な	方、感じ方、考え方を捉え、内	られた対象に触れ、作品に表	
どについて理	解している。	容を解釈している。	れたものの見方、考え方につ	
			いて発表する活動を通して、	
			我が国の言語文化について自	
			分の考えをもつことに向けて	
			粘り強く取り組もうとしてい	
			る。	
観	点	評価	内 容	
€π = ±\	 	第2学期中間考査		
知識・技能		・文法テスト		
		・第2学期中間考査		
思考・判断・表現		・授業プリント・ノートの記述内	1容	
	・週末課題の記述内容		· H	
主体的12学羽1	- 明 に知ま、能帝	・授業プリント・ノートの記述内	1宏	
主体的に学習に取り	- 奴ツ祖仏忠及		1分	
		・教師による行動観察		

–				
単元	歴史的背景を踏まえて、論理展開の巧みさを読み解こう。(『十八史略』先従隗始)			
評価期間	2 学期 9 月~	10 月		
	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきま			
	り、古典特有	の表現などについて理解を深めるこ	ことができる。	
	・「読むこと」に	こおいて、 作品や文章の成立した	背景や他の作品などとの関係を踏	
単元の目標	まえ、内容の	解釈を深めることができる。		
	・言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生活	匪にわたって読書に親しみ自己を	
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての!	自覚をもち、言葉を通して他者や	
	社会に関わろ	うとする。		
知識。	▪技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
・古典の世界に	親しむために、	「読むこと」において、作品や	訓読のきまりなどについて理	
古典を読むた	古典を読むために必要な文語 文章の成立した背景や他の作 解を深め、文章の成立背		解を深め、文章の成立背景を	
のきまりや訓読のきまり、古 品などとの関係を踏まえ、内 踏まえつつ、たと		踏まえつつ、たとえ話の論理		
典特有の表現	典特有の表現などについて理 容の解釈を深めている。 を説明する活動を通して		を説明する活動を通して、当	
解を深めている。			時の人々のものの見方や考え	
			方を理解することに向けて粘	
			り強く取り組み、自らの学習	
			を調整しようとしている。	
観	点	評価	内 容	
£ = =+h	11 41	第2学期中間考査		
知識・技能		・語句・句法プリント		
_	_	・第2学期中間考査		
思考・判断・表現		・言語活動プリントの記述内容		
	・週末課題の記述内容			
 主体的に学習に	こ取り組む態度	・週末課題の記述内容 ・授業プリント・ノートの記述内容		
		教師による行動観察	, H	
		からで ニーン・ウーイング でになっ		

単元	和歌の表現技法や効果を理解し、内容の解釈を深めよう。(『伊勢物語』筒井筒)
評価期間	2 学期 10 月~11 月
	・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果につ
	いて理解できる。
	・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、
単元の目標	考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。
	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を
	向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や
	社会に関わろうとする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・本歌取りや見立てなどの我が	「読むこと」において、作品の	・歌物語の世界に親しむために
国の言語文化に特徴的な表現	内容や解釈を踏まえ、自分の	和歌の表現技法や効果などを
の技法とその効果について理	ものの見方、感じ方、考え方を	理解した上で、登場人物の心
解している。	深め、我が国の言語文化につ	情について話し合う活動を通
	いて自分の考えをもってい	して内容の解釈を深め、我が
	る。	国の言語文化について粘り強
		く考察し、自らの学習を調整
		しようとしている。
観 点	評 価 内 容	
左□=☆◇ ++ -4 -6	第2学期期末考査	
知識・技能	・文法テスト	
田本 地區 丰田	第2学期期末考査	
思考・判断・表現	・言語活動プリントの記述内容	
	・週末課題の記述内容	
主体的に学習に取り組む態度	・授業プリント・ノートの記述内容	
	・教師による行動観察	

単 元	漢詩のきまりや	表現技法を理解して鑑賞し、詩人の	思いを読み取ろう。(唐詩の世界)
評価期間	2 学期 11 月		
単元の目標	 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 		
知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学		主体的に学習に取り組む態度	
・古典の世界に	親しむために、	「読むこと」において、作品に	・漢詩のきまりを理解して鑑賞
古典を読むた	めに必要な文語	表れているものの見方、感じ	し、唐代の詩人について調べ
のきまりや訓	読のきまり、古	方、考え方を捉え、内容を解釈	る活動を通して、我が国の文
典特有の表現	などについて理	している。	化と外国の文化との関係につ
解している。			いて理解するとともに、内容
			の解釈を深めようと粘り強く
			取り組み、自らの学習を調整
			しようとしている。

観点	評 価 内 容	
知識・技能	・第2学期期末考査 ・語句・句法プリント	
思考・判断・表現	・第2学期期末考査 ・言語活動プリントの記述内容	
主体的に学習に取り組む態度	・週末課題の記述内容 ・授業プリント・ノートの記述内容 ・教師による行動観察	

	1		
単元	文脈の中で文章	の意味を読み取り、執筆意図につい	ハて討論しよう。(『土佐日記』門
	出)		
評価期間	2 学期 11 月~	2 学期 11 月~12 月	
	・文章の意味は	、文脈の中で形成されることを理解	解することができる。
	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙		
単元の目標	述を基に的確	述を基に的確に捉えることができる。	
単ルの日標 	言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生活	厓にわたって読書に親しみ自己を
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての	自覚をもち、言葉を通して他者や
	社会に関わろ	うとする。	
知識	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組		主体的に学習に取り組む態度
・文章の意味は	、文脈の中で形	「読むこと」において、文章の	・学習の見通しをもって虚構性
成されること	とを理解してい	種類を踏まえて、内容や構成、	の高い日記を読み、文脈の中
る。		展開などについて叙述を基に	で文章の意味を読み取り、内
		的確に捉えている。	容や構成、執筆意図などにつ
			いて討論する活動を通して、
			分かったことを積極的に伝え
			合うことに粘り強く取り組も
			うとしている。
観	点	評価	内 容
たロ = 立い	++ Ar.	第2学期期末考査	
知識・技能		・文法テスト	
思考・判断・表現		・第2学期期末考査	
		・言語活動プリントの記述内容	
主体的に学習に取り組む態度		 ・週末課題の記述内容	
		・授業プリント・ノートの記述内]容
		・教師による行動観察	

令和6年度 3学期 国語科【言語文化】 評価規準

単 元	儒家思想につい		た影響を考察しよう。(『論語』)
評価期間	3 学期 1 月		
	 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 		
単元の目標			
	・言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生活	厓にわたって読書に親しみ自己を
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての	自覚をもち、言葉を通して他者や
	社会に関わろ	うとする。	
知識	▪技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、文	化の継承、発展、	「読むこと」において、作品や	・文化の継承、発展、創造を支え
創造を支える	働きがあること	文章に表れているものの見	る言葉の働きを理解した上
を理解してい	る。	方、感じ方、考え方を捉え、内	で、『論語』が我が国の文化に
		容を解釈している。	及ぼした影響について説明す
			る活動を通して、ものの見方
			や考え方を深めるために粘り
			強く取り組み、自らの学習を
			調整しようとしている。
観	点	評価	内 容
知識・技能		• 学年末考査	
		・語句・句法プリント	
思考・判断・表現		• 学年末考査	
		・言語活動プリントの記述内容	
主体的に学習に取り組む態度		・週末課題の記述内容	
		・授業プリント・ノートの記述内容	
		・教師による行動観察	
(

単元	語り物であることに注目して読解し、無常観を捉えよう。(『平家物語』木曽の最
里 九	期)
評価期間	3 学期 1 月 ~ 2 月
	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解するこ
	とができる。
	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて
単元の目標	叙述を基に的確に捉えることができる。
	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を
	向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や
	社会に関わろうとする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・古典の世界に親しむために、	・「読むこと」において、文章の	・作品の歴史的・文化的背景を踏
作品や文章の歴史的・文化的	種類を踏まえて、内容や構成、	まえつつ、表現や描写・文体の
背景などを理解している。	展開などについて叙述を基に	特色を理解して、語り物とし
	的確に捉えている。	て音読することを通して、作
		品に表れた無常観を捉え、内
		容を粘り強く解釈する中で、
		我が国の言語文化について考
		えを深めることに向け、自ら
		の学習を調整しようとしてい
		る。
観点	評 価 内 容	
7 □=±t\ ++ Δ ٢ .	• 学年末考査	
知識・技能 	・文法テスト	
	・学年末考査	
思考・判断・表現	・言語活動プリントの記述内容	
	・週末課題の記述内容	
主体的に学習に取り組む態度	・授業プリント・ノートの記述内容	
	・教師による行動観察	

単元	伝統芸能につい	て興味を広げ、随想を書こう。(『ノ	人形浄瑠璃文楽』『祭りの笛』)
評価期間	3 学期 2 月 ~ 3 月		
	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することがで		
	きる。		
	・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料		
単元の目標	のよさや味わ	いを吟味して、表現したいことを明	月確にすることができる。
	言葉がもつ価	値への認識を深めるとともに、生涯	 重にわたって読書に親しみ自己を
	向上させ、我	が国の言語文化の担い手としての目	自覚をもち、言葉を通して他者や
	社会に関わろうとする。		
知識	・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度		主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、文	は、文化の継承、発展、 ・「書くこと」において、自分の		・言葉の働きを理解し、自分の
創造を支える働きがあること		知識や体験の中から適切な題	思いが効果的に伝わるよう、
を理解してい	る。	材を決め、集めた材料のよさ	構成や展開、文体などの表現
		や味わいを吟味して、表現し	の仕方を工夫しながら、我が
		たいことを明確にしている。	国の文化に関する題材を選ん
			で随筆を書くことを通して、
			自分のものの見方、感じ方、考
			え方を深めることに向けて粘
			り強く取り組み、自らの学習
			を調整しようとしている。

観点	評 価 内 容	
知識・技能	・授業プリント・ノートの記述内容	
思考・判断・表現	・随筆の構成メモの記述内容	
主体的に学習に取り組む態度	・随筆の内容 ・教師による行動観察	